

日本語教育における作文指導論

2015.6.21 アクラス研修 <著者との対話>
『日本語教師のための実践・作文指導』

石黒 圭

国立国語研究所

日本語教育研究・情報センター

はじめに

- 「作文教育に必要なのは、よい教材ではなく、よい教師である」と断言してはみたものの、よい作文教師とはどんな教師なのだろうか。

【本書の編集で心がけたこと】

- ①こうあらねばならないという考え方は採らない
→対話を可能にする
- ②筆者の立場を明確にし、根拠を詳述する
→根拠をめぐる議論
- ③よい作文教師は、一つに定まるものではない
→多様な方法の共有

(1) テーマ論①

- 第1章「作文のテーマ:作文の目的とテーマ設定」:安部達雄
 - 標準派v.s.実践派(安部氏は後者寄り)
- 【安部氏のかかげるテーマ】
- 自由になんでも書く(相手の印象に残る文章)
 - 私の趣味とその魅力(プレゼンテーションで効果的な文章)
 - 自分の国と日本を比較して、気づいたこと(比較の文型と発想)

(1) テーマ論②

- 好きな人・好きだった人がどういう人なのか教えてください(知らない人に伝える技術)
- ウソをついてください(本当らしさを伝える技術)
- 結婚相手にのぞむ3つの条件(列挙と因果関係)
- 浮気容認派としての主張(譲歩の文型と説得)
- 私の作る法律(現状の分析と理由の説明)
- 物語の登場人物を好きな順にならべる(自分なりの整理と一つの理念への収斂)

(1) テーマ論③

- あなたが親の子であることを証明してください
(状況証拠を積み重ねと説得)
- 子どもがわかるように、比喻を使って「恋愛」を説明してください(知っているものへの見立て)
- 最強の動物を教えてください。ただしすべての動物の長を1mに還元した場合(総合課題)
- 世の中の人に、タバコの良さをアピールしてください(安部ワールド①)
- 戦争を容認してください(安部ワールド②)
- 世の中はお金がすべてであるという主張してください(安部ワールド③)

(2) ツール論

- 第2章「作文のツールを選ぶ:表記ツールとメディア」:有田佳代子
- 手書き派v.s.IT機器派(有田氏は後者寄り)
- 手書き派の主張(第2章を参照)
 - ①手書きが必要な生活場面の存在
 - ②文字習得のさいの定着のよさ
 - ③メモに適した自由度の高さ
- IT機器派の主張
 - ①IT機器に依存の生活場面の実態
 - ②入力・推敲の簡便さ
 - ③共有の容易さ(学習者間・ネット上)

(3) 教師論①

- 第3章「教師の役割を考える：ファシリテーターとしての教師」：金井勇人
- 第4章「コミュニケーションを重視した活動：協働の場としての教室」：渋谷実希
- 教師主導型 v.s. 学習者主体型（金井氏は前者寄り、渋谷氏は後者寄り）
- 教師主導型の主張（第3章を参照）
 - ① 学習者の作文能力向上への責任
 - ② 表現形式指導は教師に一日の長
 - ③ モデル提示による目標の明確さ

(3) 教師論②

- 学習者主体型の主張（第4章を参照）
 - ① 学習の自律性の確保
 - ② 協働学習による表現内容面への効果
 - ③ 学習者の選択の自由の保証
- ピア・レスポンスの可能性
 - ① コミュニケーションの真正性
 - ② 四技能の総合性
 - ③ 異なるレベルの相互補完性

(4) 技能論①

- 第5章「『総合活動型』で書く: 作文を書くプロセスの重視」武一美
- 第6章「アーティキュレーションを意識する: 四技能の連携」志村ゆかり
- 第7章「書けない学習者を支援する活動: 意見文を書くトレーニング」志賀玲子
- 四技能連携型 v.s. 作文集中型 (志村氏・武氏は前者寄り、志賀氏は後者寄り)

(4) 技能論②

- 四技能連携型の主張 (第5・6章を参照)
 - ①レベルに合った、したい／できることの**選択**
 - ②作文を媒介とした**総合的コミュニケーション**
 - ③**対話**による自己の能力の深化と達成感
- 作文集中型の主張 (第7章を参照)
 - ①最終目標への**最短のアプローチ**
 - ②アプローチに合わせた**効率的な方法論**
 - ③最終目標に合わせた**明確な評価観点**
- プロセス重視型とプロダクト重視型に類似。前者は**学習者主体型**に、後者は**教師主導型**に接近

(5) 添削論①

- 第8章「フィードバックでモチベーションを高める: 成功期待感の湧く添削・評価: 二宮理佳
- 第9章「学習者の誤用を考える: 学習者のレベル別支援」筒井千絵
- 第10章「母語の影響を考える: 学習者の母語別支援」ウリジャ
- 添削有用論v.s.添削有害論(二宮氏・筒井氏・ウ氏ともに前者寄り)

(5) 添削論②

- 添削有用論の主張
 - ①添削は表現上の誤用を減らせる(筒井氏)
 - ②学習者の母語で効率化が図れる(ウ氏)
 - ③添削はモチベーション向上の武器(二宮氏)
- 添削有害論の主張
 - ①学習者の意図を無視することになる
 - ②評価の観点は多様(教師は絶対ではない)
 - ③添削は表現力向上に役立たない
- 現在では、有用論と有害論の対立から、どのよ
うなフィードバックがありうるかという議論に進化。

まとめ

- 以上、(1)テーマ論、(2)ツール論、(3)教師論、(4)技能論、(5)添削論の五つの観点から作文指導の方法を整理したが、五つの観点には相互関連性があるように思われる。
- 現在の私の関心は、学習者の作文執筆の実態、とくに執筆プロセスの解明にある。実態がわからないことには有効な指導法を提案することは難しいと考えるからである。